

南アフリカの落葉果実事情(リンゴ、ブドウ)

米国農務省GAINレポート 2024年11月6日

これは米国農務省海外農業局プレトリア事務所(南アフリカ)が作成した「落葉果実年次報告書」のリンゴ及びブドウの項の一部を翻訳したものであり、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

<リンゴ(生鮮)>

西ケープ州は南アフリカ最大のリンゴ産地であり、東ケープ州と合わせてリンゴ生産量の95%以上を占めている(図1)。フリーステート州、ムプマランガ州及びリンポポ州を中心としてもっと北に位置している産地は、小さいながらも成長している。南アフリカのリンゴの収穫は通常1月に始まり5月まで続き、2月から4月までの間に収穫のピークがある。CA貯蔵により、国内市場と国際市場の両方に一年を通じて出荷することができる。主に輸出市場で販売されるクラス1の果実は通常、約9カ月間CA貯蔵され、その後、短い期間(3カ月)普通の大気(RA)の貯蔵庫で保管される。調査研究、市場情報、市場開発等のサービスの提供を通じて生産者を支援する業界団体である「ホルトグロ」(Hortgro)は、リンゴとナシ(及び核果類)の生産者を代表している。

図1 南アフリカの落葉果樹産地の地図



出典: Hortgro

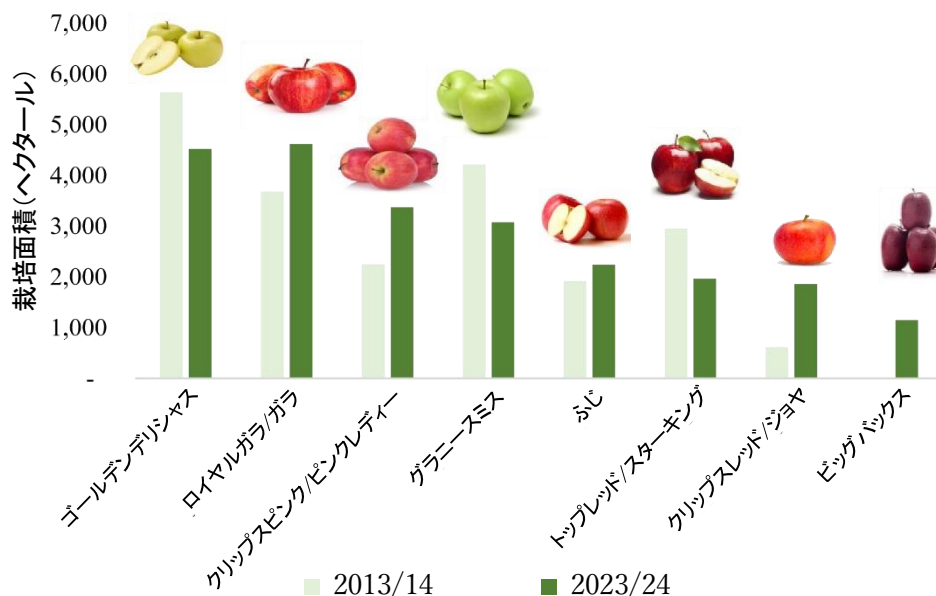
南アフリカのリンゴ生産は8つの品種が支配的であり、栽培面積の約91%を占めている。選択される品種(図2)は、主に南アフリカの輸出市場における消費者の需要によって決定される。しかし、過去5年間の植栽は、収穫量を改善したいという生産者の願望によっても推進されてきた。青リンゴの栽培面積は、特にゴールドデンデリシャスやグラニースミス等の品種で、長年にわたって減少している。嗜好はロイヤルガラ、クリップスピンク、ふじ、クリップスレッドに移っている。ビッグボックス(Bigbucks)品種は、中国、インド等の市場で好評なため、最近の新植では好んで植えられている。

栽培面積

当事務所は2024/25年度の南アフリカのリンゴ栽培面積を、2023/24年度と同じ2万5,100ヘクタールと予測する。生産者は、近年実施されている計画停電のため、代替エネルギー源の設置に力を注いできた(当事務所の報告書「[南アフリカ：負荷制限\(計画停電\)と食品サプライチェーンへの経済的負担](#)」を参照)。この代替エネルギー源への顕著なシフトは、栽培面積拡大への投資を制限しているようである。さらに、国営電力会社であるエスコム社は、2024年4月に電気料金を13%引き上げ、さらに36%の引き上げを提案しており、承認されれば2025年に実施される予定である。電気料金の値上げは、灌漑、梱包、冷蔵の電力供給を

今でも全国の送電網に依存している生産者に影響を与えると見られる。また、生産者達は、輸出可能な果実の品質を向上させるために、防電ネットへの投資に力を入れている。

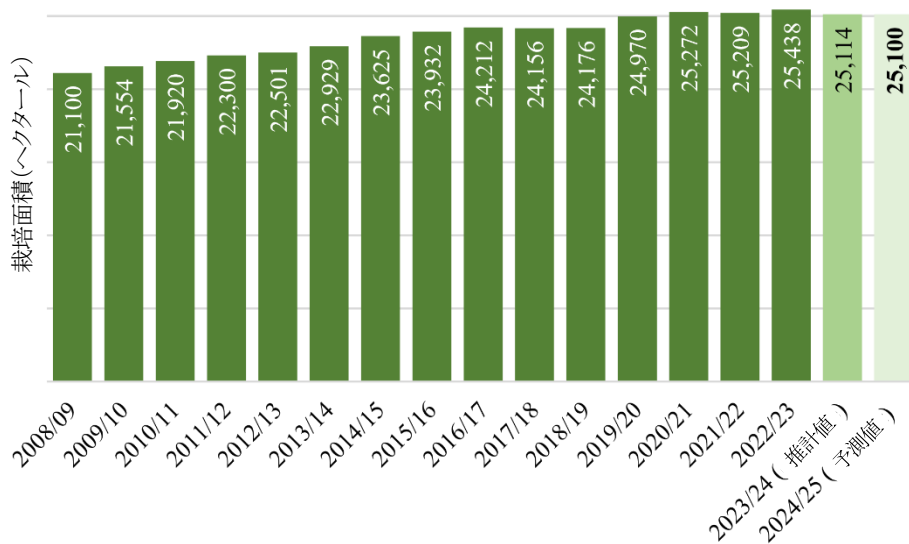
図2 リンゴの品種別栽培面積(ヘクタール)



出典: 2013年及び2023年のHortgro 果樹センサスのデータを用いて当事務所が作成

2023/24年度の栽培面積は、収穫量を増やすための新品種への新植及び改植が少なく、1%減少した。(図3)。ケープタウン港での物流上の課題、鉄道の不調、気象パターンの変化、国内市場の低迷、加工能力と冷蔵能力の制約など、いくつかの要因が面積縮小の要因となった。2024年のホルトグロのセンサスによると、最も減少した地域は東ケープ州(34%)、北部諸州(24%)及び西ケープ州のピケバーグ地区(13%)である。生産者が栽培面積の拡大を控え、古い果樹園を伐根した結果、樹齢0~3年の果樹は16%減少し、25年以上の果樹は2%減少した。樹齢0~3年の果樹の栽培面積が減少したのは、一部の果樹が成木化したことと、改植のペースが遅いためである。業界の最新の統計によると、2022/23年度の栽培面積は、以前の推計値よりもわずかに多く、2万5,438ヘクタールとなっている。

図3 南アフリカのリンゴ栽培面積



出典: Hortgro のデータを用いて当事務所が作成

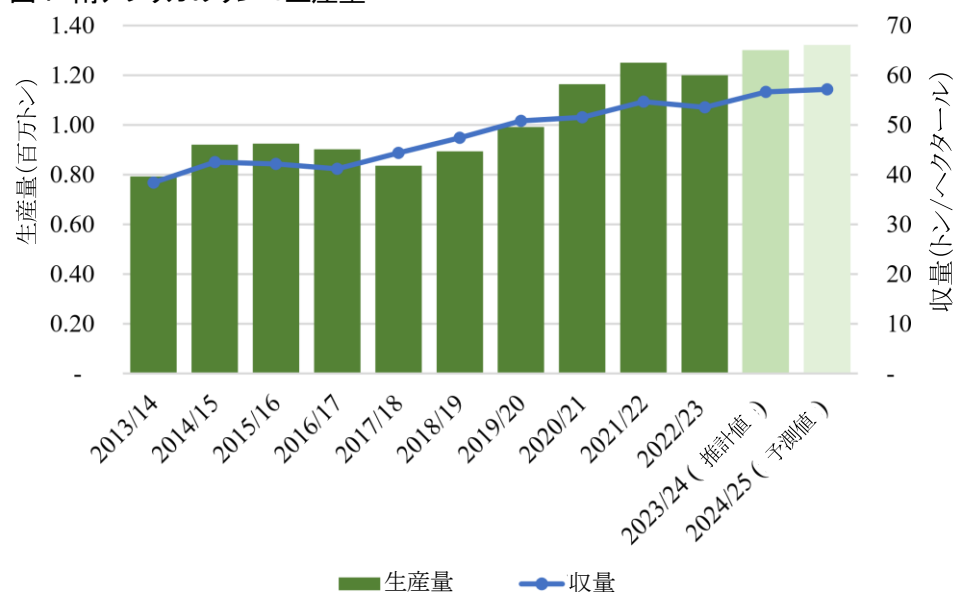
生産

当事務所は、2024/25年度のリンゴ生産量は2023/24年度から2%増加すると予測する。寒くて雨の多い2024年の冬の数カ月が生産に資すると予想される。また、産地では冬季に十分な雨が降り、夏季の灌漑用水の供給を確保した。さらに、若い果樹の成木化は、2024/25年度の全体的な生産量の増加を支える。

当事務所は、雹害を受けた2022/23年度の実績に比べ、2023/24年度の実績が8%改善したと推定する。生産量の伸びは、冬の好条件と若い果樹の成木化に支えられた。西ケープ州は2024年4月上旬に強風と大雨に見舞われたが、ほとんどの果実は収穫された。当事務所の情報提供者らは、風によって損傷または吹き飛ばされた果実は極一部だけであったと報告した。寒い天候は、赤・ピンク系リンゴの晩生品種の着色を助けた。当事務所の情報提供者らはさらに、生産量の伸びは、栽培面積の傾向を反映してビッグボックス、クリップスレッド及びガラを生産によって支えられていると報告している。

当事務所は、最新のデータに基づき、2022/23年度の実績を生産量を120万トンに若干上方修正した。2022/23年度の実績は、西ケープ州のリンゴ産地、特にセレス、ラングルーフ両地域が雹の影響を受けたため前年度に比べて4%減少した。降雹によりリンゴの出荷量が減少し、果実は物理的な被害を受けた。

図4 南アフリカのリンゴ生産量



出典: Hortgro のデータを用いて当事務所が作成

輸出

当事務所は、輸出可能なリンゴの生産量の増加により、2024/25年度のリンゴの輸出量は前年比2%増で史上最高の71万トンと予測する。リンゴは伝統的にケープタウン港から出荷されている。当事務所の情報提供者らは、設備の故障による港の非効率性が、特に早生品種の輸送に影響を与えていると見ているが、一部の古い設備の交換計画が2025年半ばまでに実行される予定である。業界は、果実の輸送に関連するリスクを管理するため、港湾当局と引き続き協議している。南アフリカは、リンゴ生産量の約53%を95カ国以上に輸出している。

当事務所は、2023/24年度の輸出量は、生産量の増加により12%回復したと推定する。ケープタウン港の問題のため、一部の輸出業者はリンゴをトラックでポートエリザベス港に輸送し、そこから出荷することを選択した。当事務所の情報提供者らは、輸出はガラ、クリップスレッド、ビッグボックス等のバイカラーの赤リンゴ及びピンクレディー品種の伸びによって推進されていると報告している。

アフリカ諸国への輸出は、主に需要の増加(特にピンクレディー、ガラ、ゴールデンデリシャス)、これらの市場での限られた競争、及び最適でない取り扱い条件に耐えるリンゴの性質によって推進されている。しかし、アフリカ諸国への輸出は、貿易コストの高さと物流上の課題によって制限されている。南アフリカは、欧州連

合(EU)と英国の両方と自由貿易協定を結んでおり、これらの市場での免税輸出の恩恵を受けている。

アフリカとヨーロッパの市場は従来から堅調であったが、成長は主にアジアへの輸出の増加によって牽引されると予想される。南アフリカのインド向けリンゴ輸出は、インド政府が南アフリカ産のリンゴとナシの輸出に対して輸送中の低温処理を承認した結果、2022/23年度に約30%増加し、2023/24年度の1月から8月の期間に65%増加した。インドに輸出されている主なリンゴ品種は、ロイヤルガラとビッグボックスである。

表1 南アフリカの生鮮リンゴ輸出量

順位	輸出先国	1月～12月				1月～8月		
		2021/22 (トン)	2022/23 (トン)	2022/23 シェア	2022→23 増加率	2022/23 (トン)	2023/24 (トン)	2023→24 増加率
1	英国	77,948	69,201	11%	-11%	63,627	72,642	14%
2	ナイジェリア	56,937	44,628	7%	-22%	28,518	24,038	-16%
3	バングラデシュ	38,008	42,427	7%	12%	39,449	34,143	-13%
4	マレーシア	37,413	38,969	6%	4%	26,432	23,891	-10%
5	アラブ首長国連邦	34,791	37,283	6%	7%	35,258	40,555	15%
6	ベトナム	23,783	24,409	4%	3%	17,448	17,460	0%
7	オランダ	21,786	23,391	4%	7%	21,377	27,390	28%
8	インド	17,470	22,712	4%	30%	22,502	37,119	65%
9	セネガル	22,772	20,576	3%	-10%	13,399	13,682	2%
10	ケニア	17,558	18,393	3%	5%	11,147	14,078	26%
11	中国	13,223	16,290	3%	23%	15,161	14,654	-3%
...	62 米国	112	482	0%	330%	464	241	-48%
	その他	263,302	248,493	41%	-6%	180,418	222,277	23%
	世界	625,102	607,256	100%	-3%	475,200	542,170	14%

出典: Trade Data Monitor, LLC のデータを用いて当事務所が作成

表3 南アフリカの生鮮リンゴの生産需給統計

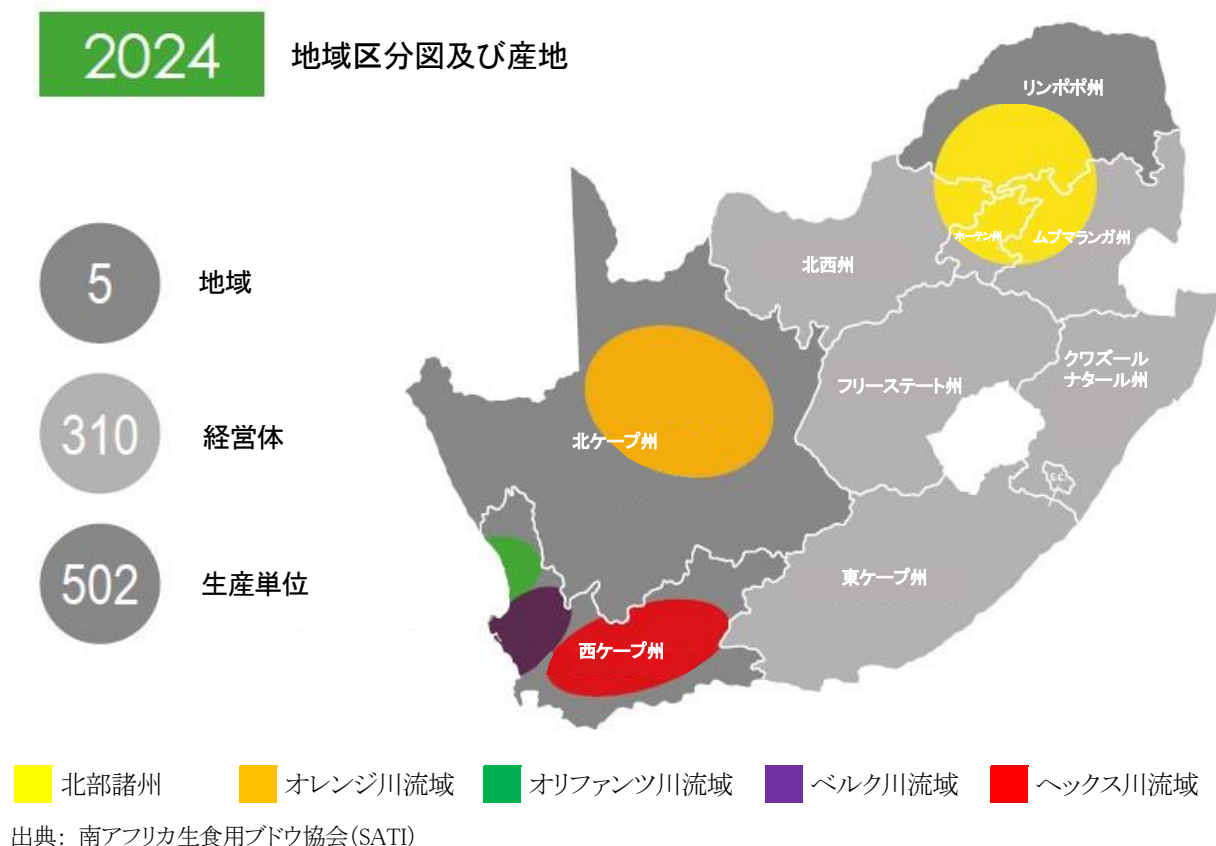
リンゴ(生鮮)	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
販売年度の始まり	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
南アフリカ共和国	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	25,277	25,438	25,300	25,114	0	25,100
収穫面積(ヘクタール)	21,500	22,400	23,500	22,950	0	23,090
結果樹本数(千本)	33,700	33,900	33,800	33,500	0	33,400
未結果樹本数(千本)	3,000	2,920	2,000	2,000	0	1,990
果樹本数合計(千本)	36,700	36,820	35,800	35,500	0	35,390
商業的生産量(トン)	1,150,000	1,200,000	1,225,000	1,300,000	0	1,320,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	1,150,000	1,200,000	1,225,000	1,300,000	0	1,320,000
輸入量(トン)	50	47	30	55	0	50
総供給量(トン)	1,150,050	1,200,047	1,225,030	1,300,055	0	1,320,050
国内消費量(トン)	542,750	592,791	575,030	620,055	0	610,050
輸出量(トン)	607,300	607,256	650,000	680,000	0	710,000
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	1,150,050	1,200,047	1,225,030	1,300,055	0	1,320,050

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<生食用ブドウ(生鮮)>

南アフリカの生食用ブドウの主な産地は、西ケープ州のヘックス川流域(32%)、ベルク川流域(23%)、オリファンツ川流域(6%)、北ケープ州のオレンジ川流域(29%)、及び北部諸州(10%)等である(図10)。南アフリカ生食用ブドウ生産者協会(SATI)は、生食用ブドウ生産者の利益を代表し、支援している。

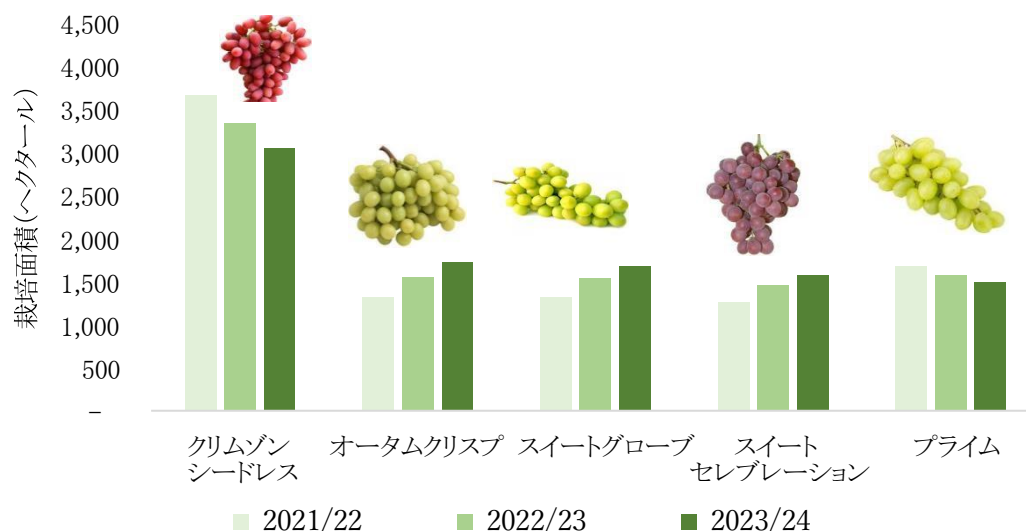
図10:南アフリカの生食用ブドウ産地の地図



南アフリカ生食用ブドウ協会(SATI)の果樹センサス(2024年)によると、生食用ブドウの栽培面積の大部分が樹齢3~9年(57%)で、次いで樹齢10~15年(20%)となっている。2023/24年度の樹齢2年未満の若いブドウの栽培面積は、栽培面積全体の減少を反映して27%減の2,120ヘクタールとなった。南アフリカの生食用ブドウの品種構成は、過去10年で大きく変化した。消費者が種無しブドウを好むことから、種無しの生食用ブドウ品種の生産が伸びる一方で、種有り品種は減少している。現在、種有りの生食用ブドウは生産量の6%未満である。

栽培されている上位5つの品種は、クリムゾンシードレス(16%)、オータムクリस्प(9%)、スイートグローブ(9%)、スイートセレブレーション(8%)、プライム(8%)である。図11に示したこれらの栽培品種は、総栽培面積の50%を占めている。

図11 主な生食用ブドウ品種の栽培面積(ヘクタール)

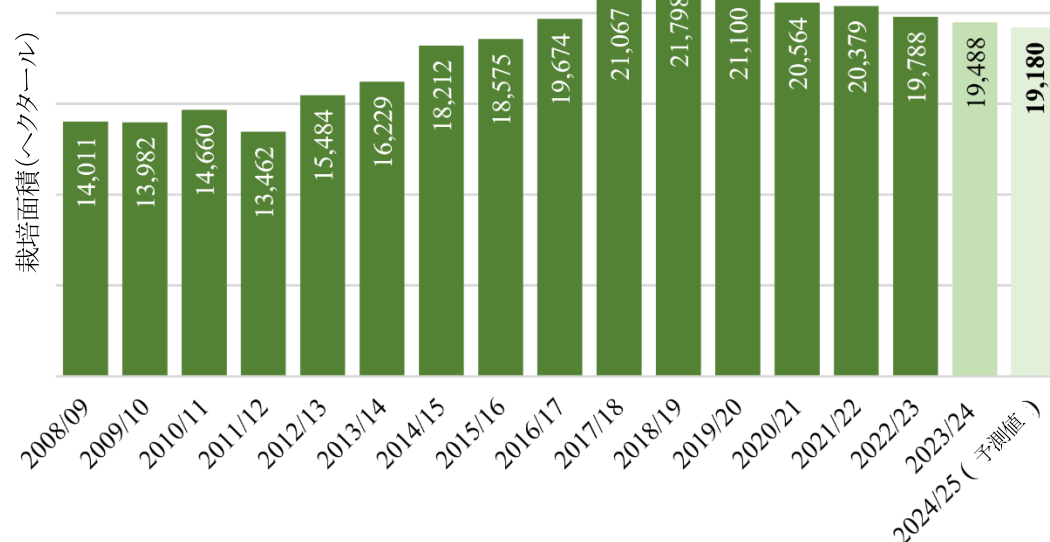


出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

栽培面積

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの栽培面積を、2023/24年度と比較して2%減の1万9,180ヘクタールと予測する。生産者は、古い品種をより新しい多収性品種に置き換えている。栽培面積は2018/19年度以降、減少傾向を示しており、年平均2%減少している。栽培面積の減少傾向は、2012/13年度から2018/19年度にかけて主に輸出収益の増加により生食用ブドウの栽培面積が急激に増加した後に起きているものである(図12)。南アフリカの生食用ブドウは主に輸出されているため、非効率的な港湾運営と道路網の劣化は、南アフリカの生食用ブドウ生産者の収益性を低下させ、この産業への新たな投資を制約する。生産者はまた、生産物を非効率なケープタウン港に代えてポートエリザベス港から輸出するためのルート変更にかかる追加コストを負担している。

図12 南アフリカの生食用ブドウの栽培面積



出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

2023/24年度の栽培面積は、2022/23年度に比べて2%減の1万9,488ヘクタールと推定される。オリファンツ川流域(+1%)を除くすべての産地で、栽培面積がわずかに減少した(北部諸州 -8%、ヘックス川流域 -2%、ベルク川流域 -1%、オレンジ川流域 -1%)。肥料や農薬のコストは安定したが、ロシア・ウクライナ紛争前の価格水準を上回っている。業界団体のSATIによると、生産者にとって最大の直接コストは人件費であり、これは直接費全体の約55%を占めている。南アフリカ雇用労働省が発表した2024年3月1日からの新たな全国最低賃金は時給27.58ランド(1.48ドル)で、前年の25.42ランド(1.36ドル)より8%高い。

2022/23年度の栽培面積は3%減の1万9,788ヘクタールであった。北部諸州は、気象条件の変化と生産コストの増加により、栽培面積が最も減少した。

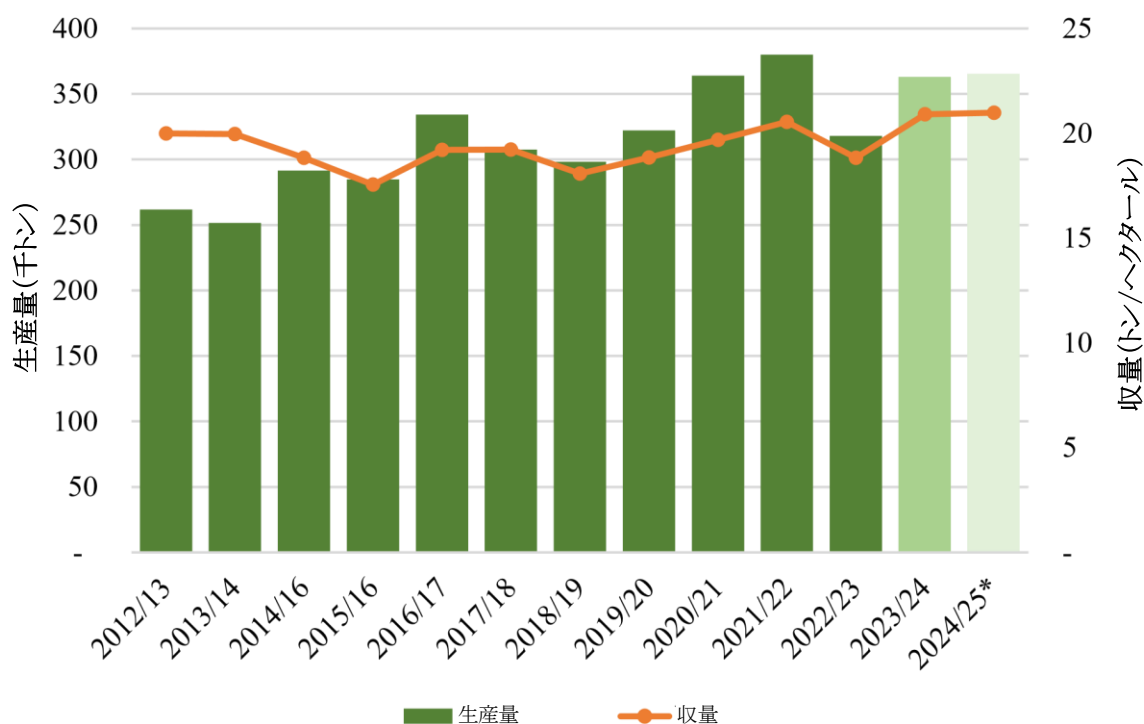
生産

当事務所は、通常の天候条件と新しい品種の成木化を前提に、南アフリカの2024/25年度の生食用ブドウの生産量を、2023/24年度と比較して1%微増の36万5千トンと予測する。2024年の冬の寒さは、果粒のサイズ、色、品質を支えるのに十分であった。さらに、冬季の降雨によりダムの水位が上昇し、灌漑用水の利用が確実になった。当事務所の情報提供者らは、大半の地域では生食用ブドウの生産量は収量の改善によりわずかに増加するか、平均を維持すると予想されるが、北部諸州では栽培面積の減少傾向を反映して生産量が減少する可能性が高いと報告している。

当事務所は、2023/24年度の生食用ブドウの生産量を2022/23年度に比べて14%増となる36万3千トンと推定する。多収性新品种が成木化するほか、ヘックス川流域を除くすべての産地でシーズン中に良好な天候条件が見られ、生産量と品質の向上に寄与した。ヘックス川流域の産地では局地的な雹害が報告されたが、全国的な生食用ブドウの生産量に大きな影響を与えるものではなかった。2023/24年度の出荷シーズンは、天候パターンの変化や、ヘックス川流域の産地でのシーズン中盤から終盤の雨の影響により、通常より約2週間早く終了した。このため、晩生品種の生産量は通常よりも少なくなった。

生食用ブドウの生産量は、2021/22年度に過去最高の38万トン記録した後、2022/23年度には16%減の31万8千トンとなった(図13)。これは、オレンジ川流域を始めとする栽培面積の微減と悪天候によるものである。

図13 南アフリカの生食用ブドウ生産量



出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成 *当事務所の予測値

輸出

当事務所は、2024/25年度の生食用ブドウの生産量に緩やかな伸びが見込まれることから、輸出量を前年比1%の微増と予測する。港湾の物流については、特にケープタウン港のコンテナターミナル(CTCT)と多目的ターミナル(CTMPT)の設備の輸出シーズン中の不足と故障により、引き続き輸出にリスクをもたらすものと予想する。

2023/24年度の生食用ブドウの輸出量は、生産量の回復により17%増加した。2023/24年度に最も輸出された品種は、全体的な生産量を反映して、クリムゾンシードレス、スイートグローブ、スイートセレブレーション、プライム及びオータムクリスプであった。従来から南アフリカ産生食用ブドウの大部分の輸出に使用されてきたケープタウン港は、2023/24年度には前年度と比較して天候関連の輸出の混乱が少なかった。当事務所の情報提供者らの報告によると、天候に起因する遅延は、2023年2月の254時間と比較して、2024年2月には105時間に過ぎなかった。しかし、輸出シーズンはケープタウン港の別の問題によって脅かされた。同港では、出荷シーズンの序盤にクレーンが故障し、輸出のピーク時には設備の不足により遅延が発生した。これらの遅延は、2023/24年度の総輸出量には大きな影響を与えなかったが、品質の低下、シーズン序盤のプレミアム価格の逸失及び契約上のタイムリーな配送の不履行等により、利益率に影響を与えた。

ケープタウン港の問題を軽減するため、生産者らは2023/24年度の生鮮ブドウ輸出の約10.6%をポートエリザベス港に迂回させる必要があった。さらに、従来からケープタウン港を経由して輸出を行っているナミビアの輸出業者も、生鮮ブドウ輸出の約21%をナミビアのウォルビスベイ港から出荷した。ケープタウンの港湾管理者、政府及び果実業界は、輸出シーズンを通して港湾の生産性と準備状況を定期的に見直し、必要に応じて是正措置を実施するために定期的に協議を行った。

当事務所は9月にウォルビスベイを訪れ、冷蔵倉庫を増設し、南アフリカ産生食用ブドウの輸出を増やす計画について調査した。当事務所は、2024/25年度には、北部諸州からの南アフリカ産ブドウとともに、より多くのナミビア産ブドウがウォルビスベイ港から出荷されると予想する。

西ケープ州で生産された輸出用ブドウの一部は、ポートエリザベス港から出荷される。これにより、特にピークシーズンにケープタウン港への圧力がいくらか緩和されることが期待される。ケープタウン港では古い設備の一部を2025年に交換する計画があるが、生産性の向上は2025/26年度の輸出シーズンまで実現されない可能性がある。

2022/23年度の生食用ブドウの輸出量は、生産量の減少と港湾での課題により、2021/22年度と比較して16%減少した。

ヨーロッパは南アフリカの生食用ブドウの主要な輸出市場であり、2023/24年度の生食用ブドウの総輸出量の約78%を占めている。オランダは、ヨーロッパ市場への輸入窓口として、南アフリカの生食用ブドウの最大の輸出市場であり、総輸出量の40%以上を占めている。南アフリカは、競合する他の南半球の輸出国よりもヨーロッパへの輸送距離が短く、EU及び英国との特惠貿易協定の恩恵を受けている。アジア、中東、アフリカへの輸出も大きく伸びる可能性があり、南アフリカの生食用ブドウ産業の中核的な重点分野である。

2023/24年度の米国への輸出量は、2022/23年度と比較して73%増加した。南半球の一部の国では、輸出可能な生産量に影響を与える悪天候に見舞われた。これにより、南アフリカは米国への輸出量を増やす機会を得た。米国に輸出される生食用ブドウは種無しであり、主な品種はスイートグローブ、オータムクリスプ、スイートセレブレーション、セーブルシードレス等である。

表8 南アフリカの生食用ブドウ輸出量

輸出先国	2022/23(トン)	2023/24(トン)	2023/24 シェア	増減率
欧州連合	154,406	191,484	58%	24%
英国	57,557	65,709	20%	14%
中東	20,320	20,431	6%	1%
カナダ	14,441	11,672	4%	-19%
東南アジア	14,169	11,196	3%	-21%
中国・香港	8,153	6,683	2%	-18%
アフリカ	4,171	6,427	2%	54%
ロシア	3,728	6,163	2%	65%
米国	3,460	5,987	2%	73%
インド洋の島国	1,407	4,889	1%	247%
その他	1,443	2,141	1%	48%
合計	283,255	332,782	100%	17%

出典: SATI のデータに基づき当事務所が作成

表11 南アフリカの生食用ブドウの生産需給統計

ブドウ(生食用、生鮮) 販売年度の始まり	2022/2023		2023/2024		2024/2025	
	2022年10月		2023年10月		2024年10月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
南アフリカ						
栽培面積(ヘクタール)	19,788	19,788	19,500	19,488	0	19,180
収穫面積(ヘクタール)	18,000	18,000	18,200	17,368	0	17,400
商業的生産量(トン)	318,000	318,000	370,000	363,000	0	365,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	318,000	318,000	370,000	363,000	0	365,000
輸入量(トン)	10,900	10,907	9,000	10,100	0	9,000
総供給量(トン)	328,900	328,907	379,000	373,100	0	374,000
生鮮国内消費量(トン)	43,900	45,652	39,000	40,318	0	39,400
輸出量(トン)	285,000	283,255	340,000	332,782	0	334,600
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	328,900	328,907	379,000	373,100	0	374,000

公式データは [PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。